

## 摂待防潮林再生記念植樹を開催しました

### 1 はじめに

平成26年5月14日、東日本大震災津波で被災した県有防潮林摂待事業区(宮古市田老)で地域住民や小学生等が参加し記念植樹を行いました。

これは、県内で被災した防潮林のうち、復旧の植樹を行う第1号を記念したものです。

### 2 記念植樹の内容

【主催】岩手県摂待防潮林再生記念植樹実行委員会(構成:岩手県、宮古市、岩手県緑化推進委員会、宮古地方森林組合)

【協力】(緑の募金)国際ロータリー第2520地区(岩手・宮城)

#### 【植樹内容】

植樹面積 0.3ヘクタール

植樹本数 1,530本(内訳:クロマツ800本、アカマツ130本、コナラ等広葉樹600本)

苗木については、大部分を山口県様、鳥取県様、緑のバトン運動実行委員会様から寄贈していただきました。

参加者については、一般公募により参加を募ったほか、主催者、協力団体、苗木寄贈者、並びに、地元の小学生や地域住民など総勢300人余りが参加しました。

### 3 植樹にあたって

参加者を8班に分け、県の林業普及指導員らの指導のもと、植樹を行いました。

今回の記念植樹は摂待事業区が一番山側の区域で行い、海側から順にアカマツ、クロマツ、広葉樹を植栽しました。

残りの区域については、引き続き岩手県が、防

災林造成工事としてアカマツを主体に、海側を除く周囲にコナラ、ケヤキを配置し植栽していきます。区域による樹種の分類は、塩害に対する抵抗性や、後背地に復旧される農地への配慮(マツ花粉の飛散)を考慮したものです。

### 4 おわりに

これらの植栽木が成林し、防潮林が本来の威力を発揮するまでには何十年という時間がかかりますが、地域の方々には、記念植樹の機会を通じて、わずかばかりでも復興の足取りを実感していただけたのではないかと考えています。

参加した田老第3小学校の児童から頂いた感想文にはどれも、僕たちが頑張って立派な防潮林に育てたいという趣旨が記されていました。

県では本年を本格復興期間の初年度として、「参画」、「つながり」、「持続性」の3つの視点を重視しており、今回はこのうちの「参画」を促進したものです。

今後、防潮林が成林していく過程で必要となる保育作業について、新たに住民参画を促すなどし、残る2つの視点を取り入れて行きたいと考えています。



林業普及指導員による植樹指導